

令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立大聖寺実業高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果%	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 基本的生活習慣の確立を基盤とし、生徒の自己調整力を高めることにより、自立した学習習慣の確立を図る。	① 本校の授業心得を周知し、授業規律の徹底を図るため、校内外の挨拶を積極的に励行する。また朝礼や授業開始時にロッカーの上や机の周りを点検し、乱れがあれば片付けさせる。	毎日、自ら積極的に挨拶することを心がけ、実行している生徒および教員の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	【生徒】 【教員】 評価 B A 後期 94% 100% 前期 96% 100%	集計結果では、生徒の94%、教員の100%が、自ら積極的に挨拶することに取り組めたとの結果であったが、その内の生徒39%、教員23%が「だいたいしている」と回答している。産業人として必要な資質の1つとして捉え、しっかりとした挨拶ができるよう、生徒・教員の意識を高めていかなければならない。
	② スキルアップタイムを活用した学習を通して、将来の産業人として必要な基礎学力の定着を図る。	私たちの教室は整理整頓されており、学習に相応しい環境であると感じる生徒および教員の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	【生徒】 【教員】 評価 B B 後期 88% 93% 前期 95% 94%	整理整頓されていると感じている生徒は88%、教員は93%と、ともにB評価であった。生徒アンケート前期95%からの7%減少したことが課題である。「実習棟はきれいだが、教室のロッカーの上が汚い」との声があり、私物の整理整頓が十分にできていないようである。さまざまな場面で5Sを意識した環境美化の指導を継続してかなければならない。
	③ 集会やWeb等による定期的な指導を通して、規範意識の高揚と校則の遵守を身につけさせる。	昨年度と比べ、指導件数が A 20%以上減少 B 10%以上減少 C 10%未満減少 D 増加した	評価 C 後期 80% 前期 84%	肯定的な意見の割合は80%でC評価であった。個々の学習進度に応じた教材の提供と設定を行い、生徒が主体的に学習し達成感が得られるように改善していきたい。
関係者評価委員会の評価	・学校や生徒が頑張っていることは分かる。生徒は校舎内では挨拶してくれるが、校舎外での挨拶は十分とはいえない。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・学校一丸となって指導していきたい。挨拶や着こなしの意義を伝えながら指導していきたい。 ・まず部活動の生徒から校舎外でもしっかり挨拶が出来るよう指導し、全体に広げていく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果%	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2 情報共有社会を見据えたGIGAスクール構想が進展する中、「主体的・対話的で深い学び」の実践をとおして、活用できる知識とスキルを育み、地域に期待される人材を育成する。	① 学習意欲を喚起する授業の工夫と一人一人が主体的に取り組む学習指導を推進する。	Chromebookの活用や探究活動を取り入れて授業の工夫を行っている教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	評価 C 後期 73% 前期 59%	肯定的な意見の割合は教員73%でC評価。しかし、生徒による授業評価アンケートでは、「ICT機器を利用した授業である」と回答した生徒は全体の90%を超えている。ICT機器を活用してはいるが、生徒の学力向上にまで繋げることができていないと感じている教員が一定程度いることが窺える。効果的な使用方法について、校内研修等を行ってきたい。
	② 質問に対して、根拠や理由を示して答えさせることで深い学びにつなげる。	学習内容について力がついたと感じている生徒および教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【生徒】 評価 B 後期 89% 前期 92% 【教員】 A 93% 88%	肯定的に回答した生徒の割合は前期92%、後期89%であった。学習内容が深まるにつれ、数値が下がっていったと考えられる。一方、肯定的に回答した教員の割合は前期88%、後期93%であり、授業における深い内容についても徐々に生徒が対応出来ていると感じているようすが窺える。生徒が学びの実感を持てる指導方法の改善を一層進めていきたい。
	② インターンシップおよび長期企業実習（デュアルシステム）を通して、主体的なコミュニケーションで問題を解決する能力を高める。	インターンシップ・デュアルシステムは、主体的なコミュニケーション能力の向上に役だったと感じている生徒・保護者の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【生徒】 評価 A 99% 【保護者】 評価 A 90%	アンケートの結果、生徒の99%、保護者の90%が、インターンシップ等の行事でコミュニケーション能力が向上したと答えている。事前指導において、挨拶にとどまらず、積極的なコミュニケーションを意識することの大切さを継続して指導してきた。また今年度は、事後指導にも時間をかけて振り返りを行うことで、実習で得られたことを実感できたことが高い肯定的な回答に繋がったと考えられる。
③ 生徒手帳や資格カレンダーを活用し、計画的、主体的に資格取得に取り組む力を育成する。	資格取得に向けて計画的に取り組んだと思う生徒・保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【生徒】 評価 A 87% 【保護者】 評価 A 90%	計画的に取り組んだと肯定的な回答をした生徒の割合は87%でA評価。また、一部の保護者からは「取得する目的を理解していない」との意見をいただいたが、意欲や姿勢が見えたと回答した保護者の割合は90%のA評価となった。校内の掲示板に資格試験や検定合格者をのせることで、生徒の意識が高まってきたことも考えられ、資格取得に向けて計画的に学習に取り組む生徒が増えてきていることが分かる。	
関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の活用について、教員向けの研修会を行うべきである。 ・地元企業について知ってもらい、地域に貢献できる人材育成を今後とも続けてほしい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の1人1台端末を使った授業研究のPT教員3名を中心に、校内で情報共有しながら研修を進めていく。 ・デュアルシステムやインターンシップなど多様な体験の機会を充実させ、地域社会と連携し、地域に貢献できる人材を輩出していきたい。 			

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果%	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3	学校の教育活動全体をとおして、将来の産業人として求められる人間力を磨き、他を思いやる人間性を涵養する。	① 生徒一人ひとりの生徒会活動への参加意識を高め、行事を通して人間的成長を図る。	生徒会行事(聖実祭、ホーム対抗行事)で自ら積極的に取り組んだ生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	評価 A 94%	新型コロナウイルスに対する制限が徐々に緩和され、これまで実施できなかった生徒会行事が可能となり、参加できることに喜びを感じる生徒が多かったように思われる。 今後は更に制限が緩和されると予想されるので、生徒が積極的に取り組める行事を企画していきたい。
		② ボランティア活動に積極的に参加することで、奉仕の精神や郷土愛を育む。	年間ボランティア活動に、2回以上参加した生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	評価 D 35%	遠足での海岸清掃やロボレーブ大会、雪かきなどの様々なボランティア活動を行っている。部活動単位で行うことが多く、ボランティア活動である思っていない生徒が多いことがアンケート結果の値となっていると思われる。今後は、ボランティア活動の事前指導を行い、意義を伝えた上で積極的に取り組んでいきたい。
		③ いじめや不登校の早期発見・早期対応に向け、教員間での情報共有と連携を図る。	教職員の情報交換により、問題の未然防止や早期発見に努めている教員の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	評価 A 後期 100% 前期 88%	年3回のいじめアンケートや相談室連絡会など教員相互の情報交換により、「いじめと感じた事案」については、迅速かつ早期に対応ができた。後期には、アンケート集計結果も教員の100%が未然に防げたとの結果であった。
関係者評価委員会の評価		・成人年齢が引き下げられたので、金融セミナー等を開催し契約などの教育を取り入れていって欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・家庭科や学年会で金融機関から外部講師を招いて授業を行っているが、さらに内容を充実させていく。			
4	学校に対する理解を深めるため、Society5.0時代に役立つAI・IoT教育やデジタルコンテンツの作成など、本校における特徴的な教育活動の情報を積極的に発信する。	① 学校だより、学校Webページ、学校懇談会、報道等を活用し、保護者や地域等への情報提供を充実させる。	情報発信によって本校の教育活動について、よく理解できると回答した保護者の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	評価 A 後期 91% 前期 89%	昨年度はB評価であったが、今年度はA評価となった。新聞やラジオで生徒の取り組みが報道されたこと、PTAの活動が昨年度よりも増え、保護者の学校への関心が高まったことなどが要因と考えられる。 今後も情報提供のあり方を工夫し、地域や保護者から本校の教育活動について理解が得られるように努めていく。
		関係者評価委員会の評価		・学校のことが新聞等でよく取り上げられており、アンケート結果から見てもしっかり取り組んでいることが分かる。 ・高校卒業後に進学する生徒が増えてきている中、特進クラスを設ける予定はないか。	
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・本校の取り組みを中学校の生徒以外に、中学生の保護者や教員にも理解してもらえよう伝え方を工夫していく。 ・特進クラスは設けないが、専門高校の特色を生かしながら進学したい生徒を支援していく。			

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果%	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
5	ワーク・ライフ・バランスを改善するため、校務の効率化・平準化を実現し、時間外勤務の縮減を目指す。	① 時間管理の意識を高め、日頃から生徒とのコミュニケーションをとる時間を確保することに努める。	採点業務省力化ソフト等の活用で業務の効率化を意識し、生徒と向き合う時間を確保するよう努めている教員の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	評価 A 後期 97% 前期 94%	採点業務省力化ソフトの使用は3割程度だが、97%の職員が「生徒と向き合う時間を確保している」と肯定的に答えた。生徒と向き合う時間を確保するため、今後も見通しを持って業務に取り組むなど多忙化改善に努めていきたい。
		② 若手教員とのOJTを通し、探す無駄、待たされる無駄、やり過ぎる無駄を減らすことに努める。	次年度へ業務を引き継ぐことを前提に置き、メモやマニュアル等を残しながら仕事をしている教員の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	評価 B 後期 87% 前期 67%	肯定的に答えた教員の割合が、前期67%、後期87%となり、ある程度改善したが、業務を引き継ぐことを念頭においた対応が十分にできていない。無駄を削減し、本来の職務に専念するためには、必須のことであるという意識改革を図り、業務の見える化に努めていく。
		③ 部活動の活動日はスポーツ科学等の根拠に基づいて設定する。	効果的な活動日を設定して、毎月の部活動計画を立てている教員の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	評価 A 後期 93% 前期 82%	前期は新型コロナウイルスの影響で、日々の活動自体に制限がかかる状況であった。後期には、徐々に制限が緩和され、大会等が平時に近いかたちで開催されるようになったが、効果的に休養日を確保できたと肯定的に回答した部活動の割合は93%に達した。生徒や保護者の理解を得ながら、今後も効果的な部活動運営を工夫していく。
関係者評価委員会の評価		・市商工会主催のセミナー等に教員に参加してもらい、民間企業の取り組みを参考に効率的な働き方を考えてみてはどうか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		・今年度は1回3名の参加だったが、次年度は機会を増やして教職員の意識改革をさらに進めるとともに、効率的・効果的な業務改善を目指す。			